【教員寄稿】

GIBO Lucila Etsuko

学生の皆さんへ

初めまして、4 月からポルトガル語学科の嘱託講師になるギボ・ルシーラ・エツコです。どうぞよろしくお願いします。私は、ブラジル生まれブラジル育ちの日系二世です。「ギボ」は「儀保」と書いて、両親の故郷である沖縄の名字です。

初めて日本に来たのは大学生の頃で、一年間沖縄の大学に留学しました。もともとブラジルの大学では語学（日本語及びポルトガル語）を専攻していて、日本語を上達させるために日本に留学しようと思ったのです。あの当時、日本語の勉強は一番の趣味でもあり、留学したおかげで多国籍の人と出会い、広い世界を見ることができるようになりました。

留学後、ブラジルの大学を卒業し、日本語教師の職を得ました。教師の仕事を通して、言語を教えるだけでなく、私自身も言語についてたくさん学ぶことができました。そして、好きなことを仕事にすることの喜びを実感しました。しかし、大好きな仕事だったにもかかわらず、就職して数年後に辞職しました。それは、再び日本に留学しようと決めたからです。日本の大学で修士号を取得し、帰国したら日本語教師の仕事に復帰しようと計画していました。しかし結局、研究に興味を持つようになり、修士課程を修了しても研究を続けたい気持ちがとても強かったので、博士課程に進学することにしました。私には、研究者になりたいという新しい夢ができていたのです。

私は、ブラジルの沖縄系移民社会における言語接触について研究しています。ブラジルの沖縄系移民社会では、日本語、琉球語、ポルトガル語が接触して新しい言語の体系を生み出しているのですが、社会言語学と文法学の観点からその接触現象を研究しています。これと関連して、ポルトガル語の文法の研究も行なっており、沖縄でポルトガル語を教えた経験もあります。

振り返れば、日本語の勉強を始めたことで、留学、日本語教師、大学院、そしてポルトガル語の研究など、やりたいことが次々と思い浮び、今この場所にいます。言い換えると、日本語の勉強を始めていなければ、上智大学のポルトガル語学科に来ることもなかったかもしれません。

私も新入生の皆さんと同じように、これから人生の新しいステージに突入することになります。もちろん不安な気持ちもありますが、これからの新しい人との出会い、新しいことの発見、新しい経験ができることを想像したら何よりもワクワクします。人は新しいことに挑戦すると、そこから最初想像もしていなかった更に新しいことを経験するチャンスが生まれるのです。その新しい経験が良き経験になるかどうかは、人次第であり、与えられたチャンスを上手に利用しなければなりません。

上智大学で勉強する素晴らしい機会を与えられた学生の皆さん、悔いの残らないように大学生活を充実させてください。熱心に勉強に打ち込み、常にアンテナを張って周りの（良い）情報を吸収するようにしてください。同級生同士で情報交換し、先輩から留学経験などの話を聞き、授業中は先生の発言を集中して聞き、ひとつひとつ自分のものにしていってください。そうしているうちに、自分のやりたいことが見えて、希望や目標が持てるようになります。希望や目標がはっきりしていると、人は生きがいを感じて、人生を楽しく生きることができます。 ひとつの目標を達成すれば、更なる進歩を求めて、次の目標を見つけてください。大学時代のひとつひとつの経験が将来につながるのです。

Cultivem seus sonhos e boa sorte!!!（夢を育ててください。そして、ご幸運を祈ります。）